

北海道教育委員会教育長 様

北海道有朋高等学校長 宮 田 日出夫

1 本年度の重点目標

- (1) 自ら学び自ら考える力を育成する学習指導を推進する。
- (2) 自らを律する心と豊かな人間性を育成する生徒指導を推進する。
- (3) 無学年制・完全単位制の特色を生かす教育活動を推進する。
- (4) 社会の変化に対応する定時制・通信制教育の実践研究を推進する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・合同避難訓練の実施、業務継続計画策定などの取組が充実し、通信制と単位制との相互連携の一層の推進が図られた。 ・通信制単位制合同の校内研修も行われ、研修内容の充実が図られている。 ・広報活動の充実を図るため、教職員で手分けをして市内の多くの中学校に訪問した。 ・通信制、単位制のそれぞれの学校説明会時に通信制と単位制の両方の質問ブースを設けたことにより効果的な説明会となった。 ・文部科学省の研究開発学校としての取組が継続され、通信教育の新たな展開が模索された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果が厳しいと感じるが、教職員の理想とする目標値が高いのかもしれない。教職員が前向きに生徒指導等に当たっている結果でもあり、高く評価する。 ・広報活動は、高校受検を目指す中学生にも影響を与える。有朋の教育活動をより良く紹介するように継続的に頑張ってもらいたい。 ・遠隔スクーリング及び遠隔授業を受けている生徒の反応を今後の研究に活かしてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・評価点が全体的に高レベルではないが、評価者の意識がより高いレベルを目指した結果と思われる。全体としての取組として見ると、改善傾向にあると思われる。 ・評価点数が高かった項目は継続して取り組む。 ・次年度は通信制、単位制ともに積極的な道外研修を推進し、先進校のシステムを学んでいく機会とする。それを校内研修会で還元し、学校課題の解決に向けて推進していく。 ・Webによる広報活動の効果的な運用を研究し、内容の充実を図っていく。 	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・報告課題や面接指導の内容を生徒の実態に合わせて精選していった。また、課題の添削コメントと講評が効果的に行われるよう努めた。 ・学びの機会を拡充し、生徒の自学自習を支援するよう努めた。 ・本校の学習指導の要であり、単位制の本旨である科目登録にあたって、生徒一人ひとりの面談を充実させ、進路希望の実現を図る履修計画となるよう努めた。 ・生徒の個性の伸張を目指す教育課程の編成と実施に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の置かれている実態や家庭の状況等有朋高校ならではの課題も多いと思うが、通信制単位制ともに単位の修得率や卒業率の向上に向けてあらゆる努力を継続してほしい。 ・通信制・単位制に関わる科目履修制度等の取組は、生涯学習の視点からも素晴らしい取組であり、ぜひ参加者を増加させられるよう内容の充実を努めてほしい。また通信制で行われている「自主企画講座」も参加者の学習意欲を高める取組として評価できる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの機会を拡充する観点から、「自主企画講座」のように生徒等が主体的・意欲的に学習する機会の充実について検討していく。 ・生徒一人ひとりの学習歴を考慮し、個性を生かした履修計画の立案に向けてよりきめ細かく支援していく。 ・生徒の実態を十分に把握した上で、生徒による授業アンケートや授業評価を実施して、授業形態の工夫や魅力ある授業づくり等、授業改善に一層取り組んでいく。 ・本校では高校入学を機に今までの生活をリセットし、高校生活をやり直そうと意気込んで入学してくる生徒も多い。それらの生徒たちに、科目登録指導などを活用して、一層の支援を充実させ、学習の手助けをする機会を多くする。 ・遠隔授業の研究開発を推進し、授業の質向上を図るとともに生徒の学力向上を図る。 	

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・両課程が協力し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置を積極的に利用した。相談を要する生徒や保護者が多く、十分な時間の確保をすることができなかった。特に通信制では、スクールソーシャルワーカーの緊急派遣を要請して、連携を取りながら生徒の心に寄り添った指導と外部関係機関との連携を図ることができた。 ・単位制においては、地域活動やボランティア活動を積極的に実施できた。 ・家庭との連携は通信制、単位制ともに今後とも連携推進に向けて努力していく必要がある。 ・生徒個々の状況を適切に理解し、必要に応じた健康相談や教育相談の実施、生徒理解の観点に立った指導体制を築くよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の家庭状況等には、心痛めることが多い。是非ともスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーについては継続した配置や来校時間の増加を要望してほしい。 ・ボランティア活動の状況は、学校周辺の地域清掃、児童館や消火栓の除雪等広報誌でも拝見している。今後も継続して推進してほしい。 ・生徒たちの地域での行動は改善されてきている。今後も地域とともに生徒を育てるという意識を高め、より多くの情報共有を図ってほしい。 ・生徒のコミュニケーションスキルの向上を図る取組を推進してもらいたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、家庭的に大きな問題を抱えた生徒の入学が増えてきている。本校にとっては極めて重要な課題であり、カウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置及び相談時間の増加等を要望していく。 ・日常の生活ルールやマナーを含めた指導を、ことある毎にきめ細かく指導していき、生徒の自己指導能力の向上のため、根気強く指導していきたい。 ・家庭や地域との連携を一層推進していく。特に屯田地区の地域防犯パトロール隊やまちづくりセンター、北警察署等外部の関係機関等との連携を推進し、ボランティア活動等を通して、地域に貢献できる活動を実施していく。 ・通信制、単位制ともに家庭との連携に困難をきたすことが多いが、今後も家庭との連絡を密にとりながら、粘り強く指導していく。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・通信制における、進学や就職等の活動は、限られた条件や環境の中で計画的・組織的に行われている。昨今の就職状況は徐々に良好になってきているが、さらにホームルーム担任や協力校担任とも連携を深めた。 ・HR活動や個人面談等を通して、生徒一人ひとりの自己理解を深め、勤労観や職業観を育成していくことができた。 ・一方で、高校卒業が精一杯で、とても就職や進学を考えることができない生徒も多かった。 ・「進路だより」や「進路のしおり」等による情報提供を積極的に進めるとともに、生徒の進路意識の向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職状況はいくぶん改善されてきているが、さらに資格取得に向けて生徒に継続した指導を行うなど、より充実した進路指導を図ってほしい。 ・卒業を目標とするにとどまらず、社会の一員として活躍する人材育成へと進化させてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「校内学力検定」を実施し、中学校から高等学校1学年程度までの基礎学力の向上に取り組んでいる。今後は内容の改善と参加生徒の一層の増加を図り、学力向上の手立ての一つとしていきたい。 ・教育課程にキャリア教育の充実を目指した「キャリア学習」を開講させている。今年度の反省に立って、内容の充実を推進していきたい。 ・通信制においては、年間計画に基づく進路相談会の開催や定期的な進路通信の発行、担任による面談や電話相談の充実により、進路意識の啓発に一層取り組み、今後はさらに生涯を見据えたキャリア教育の充実を図っていく。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を深め、将来への不安を緩和して行く進路指導の充実を図って行く。 ・両課程において若者サポートステーションやジョブカフェ、ハローワークなどと連携し、進路指導を行っていく。 	
公表	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで公表する。 ・PTA総会、学校評議員会、学校関係者評価委員会で公表する。 	

3 添付資料

- ・平成29年度 北海道有朋高等学校通信制課程 学校自己評価集計結果
- ・平成29年度 北海道有朋高等学校単位制課程 学校自己評価集計結果